



食の安全「基本のお話」

— 第81回 —

ドキュメンタリー映画「FOOD EVOLUTION」 オンライン上映会を開催しました。12月5日(土)YouTube Liveによる配信

遺伝子組換え作物をめぐるこの映画を通じて、科学と農業・食料問題について考える機会にしたいと、映画の上映とクロストークを開催し、80人以上の方に参加いただきました(最大同時接続数81)。

上映前に、元毎日新聞記者の小島正美さんに、映画の解説をしていただきました。

- 遺伝子組換え作物は、いまだに誤解が多い。
- この映画では、反対派、科学者、農業生産者など、様々な立場の人が登場する。それぞれ何を主張しているのか、また農業の現場はどうなっているのか、見てほしい。

映画上映後、 「バイオテクノロジーの進化と食の未来」を テーマにクロストークを行いました。

大阪府立大学大学院 山口准教授の進行で、参加者のチャットでのやりとりも織り交ぜて、意見交換を行いました。登壇者は、大阪府立大学大学院 小泉教授、小島さん、いずみ市民生協の理事2人です。

小泉さんからは、ゲノム編集技術の紹介と問題提起がされました。

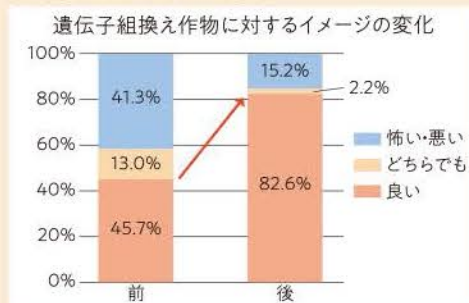
- 有機栽培も遺伝子組換え技術も、環境負荷低減をめざしている点では同じ、共存できるはず。
- さまざまな育種方法、栽培方法、多様性が認められるべきではないか。

クロストークの感想

- ・いろいろな栽培方法が共存してもよい、その通りだと思った。
- ・新たな科学的発見があれば、それを人類の幸せのために活用しようとする、それが科学者なのだと改めて感じた。
- ・食品を流通させる側の責任としての「安全」と個人が考える安全(安心)の違いを考えさせられた。



参加者のアンケートより



〈怖いイメージから良いイメージに変化した人の気づき〉

- ・遺伝子組換え技術で、どれほど多くの人が救われているか。
- ・害が出たという研究報告が否定され、改めて検証された研究で問題がなかったこと。
- ・遺伝子組換え作物は人類の食料確保への解決策として科学者が真摯に向き合った結果生まれたもの。
- ・「正体がわからないから何となく危ない」と避けてきたが、それは間違いであった。

〈怖いイメージを持たれている理由〉

- ・安全だとわかって、やはり新しい技術については、少し不安がある。
- ・健康被害が万が一出ても、政府が誠意ある対応をしてくれるとは思えない。

～映画のメッセージより～

優れた食料を供給するために、どれだけ科学が役立っているのか理解されていない。

次に訪れる食の進化の分かれ道に、まっとうな科学に背を向けてしまったら、私たち人間、地球の未来はどうなってしまうのか。

映画の情報はコチラから → 映画「FOOD EVOLUTION」ファンサイト

